

中野区教育委員会会議録 平成23年第18回定例会

○開会日 平成23年6月17日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前 10時01分

○閉 会 午前 11時20分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	山 田 正 興
中野区教育委員会委員長職務代理	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会委員	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した事務局職員(9名)

教育委員会事務局次長	村 木 誠
副参事(子ども教育経営担当)	白 土 純
副参事(学校再編担当)	吉 村 恒 治
副参事(学校教育担当)	宇田川 直 子
指導室長	喜 名 朝 博
副参事(知的資産担当)・中央図書館長	天 野 秀 幸
副参事(学校・地域連携担当)	荒 井 弘 巳
副参事(特別支援教育等連携担当)	伊 藤 政 子
副参事(就学前教育連携担当)	海老沢 憲 一 (欠席)
副参事(子ども教育施設担当)	中 井 豊

○担当書記

子ども教育経営分野	落 合 麻理子
子ども教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長	山 田 正 興
教育長	田 辺 裕 子

○傍聴者数            2人

○議事日程

[報告事項]

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 6 / 4      区立学校運動会（谷戸小学校、第三中学校、第四中学校、第五中学校、第七中学校）について
- ・ 6 / 10    ひがしなかの幼稚園訪問とやよいこども園視察について
- ・ 6 / 11    平和の森小学校開校式について
- ・ 6 / 15    医療機関における児童虐待対応に関する東京都の説明会について

(2) 事務局報告事項

- ①「小中連携・学校と地域との連携等についてのアンケート調査結果」について（子ども教育経営担当・学校再編担当）
- ②若宮小学校特別支援学級（情緒障害等）の整備について（学校教育担当）
- ③学校支援ボランティア制度の創設等について（学校・地域連携担当）

中野区 教育委員会  
第 1 8 回定例会  
(平成 2 3 年 6 月 1 7 日)

午前10時01分開会

山田委員長

皆さん、おはようございます。

ただいまから、教育委員会第18回定例会を開会いたします。

本日は、就学前教育連携担当が欠席をしております。

本日の会議録署名委員は、教育長にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは、日程に入ります。

<報告事項>

山田委員長

初めに報告事項です。

<委員長、委員、教育長報告事項>

山田委員長

まず、委員長、委員、教育長報告を行います。

私のほうから、6月3日の第16回定例会以降の主な委員の活動について一括して報告いたします。

先週6月10日金曜日、第17回定例会として、ひがしなかの幼稚園の訪問とやよいこども園の視察を委員全員で行いました。

翌6月11日土曜日ですけれども、平和の森小学校の開校式があり、大島委員、飛鳥馬委員、教育長が出席をされました。

そのほかに補足がありましたら、お願いいたします。

私のほうから報告をさせていただきます。

今報告をしましたひがしなかの幼稚園訪問とやよいこども園の視察ですけれども、やよいこども園も、いわゆるこども園として開園して1年少たったわけですが、もともと区はやよい幼稚園が母体でございますので、設備的には非常に恵まれたこども園で、中野区のほかの保育園に比べれば十分な園庭が確保されていてということです。今までの幼稚園と違って、保育園の機能のあるところにはきちんとしたさくが設けられていたり、また、ゼロ歳からも預かっているということで、保育園の機能も持っているということで、今後、こども園が保護者のニーズとしては高いものがあるかもしれませんが、国としてどのように整備していくのかは注視していかなければいけないのではないかなと思っており

ます。ただ、通っている子どもたちは非常に元気に、また、その園の中でいろいろな取り組みをされていました。専門の先生が来て、子どもたちに対して体育指導をしていたというような先駆的な取り組みをされておりますので、そういった面では、いろいろなプログラムでやっていただいておりますので、ありがたいなと思っております。

そのほかに報告をさせていただきます。

私は、15日水曜日に東京都福祉局の「医療機関における児童虐待対応、法制度並びに児童相談所の連携」ということが東京都の都民ホールで行われましたので、午後からだけでしたけれども出席をいたしました。皆さん方、児童虐待の数が非常にふえていることはご承知だと思います。日本で統計をとり始めてからは件数がかかなり多くなってきているということでもありますけれども、児童相談所というものがなかなか難しい立場に置かれることは知っていらっしゃると思います。東京都でも、児童相談所は11カ所ですか。人口50万人に1カ所とされておりますけれども、11カ所というのは、1,000万都市にとってはやはり少ないのではないかなというところと、その児童相談所で働いている方のお話を聞きますと、児童福祉士なりの専門職の配置も圧倒的に少ないということで、件数がふえている、ふえているとあって対応するわけですが、やはりマンパワーが圧倒的に不足している。全国のものから見ても、東京都の児童福祉士の配置は全国の2番目に低い。高知県や青森県に比べると人口比で2.6倍違うというような報告もありました。ですから、相談件数が1人当たり100から150ケースということです。逆に、カナダの例が出ていましたけれども、カナダは、1人が持つ相談件数というのは非常に少なく20件ぐらいという話です。このぐらい違うといろいろなそごが出てくるだろうと。一生懸命やられていてもやはり限りがある。そういったところを今後どうしていくのかなということが話されて、どのようにするのかということだと思います。その中で、親子が希望を持てる社会、子どもが自己肯定感を持てる社会の実現ということが最終目的であるという大きなものを掲げておっしゃっていました。まさしくそのとおりですが、いかんせん、マンパワーが足りないなという気がいたしました。

それから、これは医学の世界の話ですが、皆さん方、「ロボット手術」という言葉をお聞きになったことはございますか。これは、日本ではまだまだおこなわれているのだそうです。アメリカが開発したもので、遠隔操作によって手術をする。もともとの発想は、戦時において負傷兵が出たときに、人を介さず、その方を収容して、簡単な手術をして後方に送るということで開発されたのだそうです。日本では、今、20台の機械が入っています。

アメリカでは1台1億円なのですがけれども、日本では今3億円かかるのだそうです。東日本に入っている病院としては、今、東京の大学病院に3台あるのだそうです。術者は、コンピュータゲームみたいなところに顔をつけまして、3Dでいろいろ見えてくる。親指と人差し指で操作するのです。

日本というのはロボットが進んだ国というふうに私も思っていたのですがけれども、原発の事故以来、日本のロボットはどこに行ったのかなと思います。日本は、アトムというのがあったので、自分で動くようなものを考えたそうで、遠隔でやるようなことはおこなっているのだそうです。このロボット手術は、将来的には、遠隔地、離島とかにその機械を入れられれば、ドクターがいなくても遠隔操作で手術ができるということのようです。ただ、まだ非常に高価であるということと、国の定めである高度先進医療をとったとしても、1症例当たり80万～100万かかるという実態だそうです。でも、今までだったら非常に危ない手術も難なくやってくれる。これには、非常にたけた、解剖学的な技術を持った術者がいるということが大切なのですけれども、そういったロボット手術はこれからどんどんふえていくかもしれません。ちなみに、韓国はもう50台持っていて、中国も今はもう80台ぐらい持っているのだそうです。もちろん、アメリカは200台以上持っています。そういったことで、今、臨床ロボット学会というのが立ち上がって勉強会が進んでいるということでございました。そういった意味では、日本の理科離れではないのですが、もう一度原点に戻ってそういったことに頑張っていかなければいけないのではないかなというふうに感じました。

私からは以上です。

高木委員、お願いいたします。

高木委員

6月4日ですが、運動会を2校見てきました。午前中が第七中学校でございます。第七中学校は知的障害学級のD組がありまして、各種目に分かれて参加をしておりました。大島委員が先々週ですか指摘されたように、いかだ流しというのが定番であってなかなかよかったです。ただ、全般的に、例えば100メートル走だと、1年生が走って、2年生が走って、3年生が走るのを見ていてつまらない。小学校のはいろいろな種目があって、見ていると非常に楽しいですね。ダイナミックでいいのですけれども。午後は、同じく、知的障害学級がある四中を見に行きました。午前中の最後に、ちょうど七中さんで全女子のソーラン節。で、四中へ行ったら、午後の第1種目が女子ソーラン節です。それぞれなかなか。

七中は「江古田」と書いたはっぴを3年生だけ着ていて格好よかったですね。四中は、安赤と青の2色、先生が予算を工面して買ってきてみんなが着ていて、そろったのでやっていてよかったですね。あと、珍しく男子騎馬戦があつて、結構見ごたえがありました。

私からは以上です。

山田委員長

飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

私も、委員長が報告したひがしなかの幼稚園とやよいこども園と一緒にに行ってきました。感想を述べさせていただくと、ひがしなかの幼稚園のほうは、今までの幼稚園という園長先生の顔を見に行っているのも異和感はないのですが、子どもたちが遊ぶといますか、伸び伸びとしている。4歳ぐらいの子どもがタオルケットか何かを首に巻いて、「〇〇マンだ」「ワー」「キック」とか言って私のところへ来るわけですね。表で遊んで手が汚いものだけれども、ちゃちゃっと洗うと、私のところへまた来る。高木委員は、おんぶをしたり、大分奮闘していましたけれども。あそこにいる子は、ちょっと小さい山があつたり、砂場があつたりすると、何か目的があるのでなくてわーっと走る。そういう子どもらしい生き生きとした姿を見て、やよいこども園のほうに行ったわけですが、保育園の子もいるし、幼稚園の子もいる。保育と幼稚園的な機能と両方いるのですが、山田委員長から言われた、例えばこの前見たマット運動の前転とか、鉄棒とか、小学校に近い形でやっているわけですね。ことしから詩みたいなのを覚えるというか、これを一生懸命やっていましたよね。子どもも、先生が言ったのを復唱してやっているわけです。保育園的な育て方と幼稚園的な育て方の非常にいい対比があつたなという気がしているのです。

幼小中連携教育とかを考えていくと、どうしても中学校は小学校、小学校は幼稚園に注文が行くことが多いと思うのですね。「じっと座ってられませんよ」とか、「あいさつができませんよ」とか、「しつけができていませんよ」とか、そういう部分が多いのだらうと思うのです。そういうので考えると、「ことしの小学校1年生は全然座ってられない。話も聞けないんです」と言われると、幼稚園とか保育園の先生は頑張つて、「ちゃんと聞くんですよ」とか「少し字も教えなきゃ」とか「覚えなきゃ」とか、「マット運動も」とか。そういうふうになってきてしまうと、その境目がよくわからないというか、子どもたちの教育のために何がいいのかなど。特にこども園になったようなときにどうするのがいいのかなど、保育とか教育の中身のことをちょっと考えたのです。永遠の課題かもしれないので

すけれども、いい対比を見せてもらったなというような気がしています。

課題はまだたくさんありますけれども、以上です。

山田委員長

では、大島委員、お願いいたします。

大島委員

私も6月4日土曜日に五中と三中の2カ所の運動会に行ってきたのですが、やはり、今高木委員からも出たいかだ流しというのですか、三中のほうで。ただ、「矢切りの渡し」というふうにタイトルは変わっているのですが、同じような、ぐるぐると背中の上を飛び越えていくというので、やはりどこの学校でも人気なのだと思いました。

春にやる運動会というのは、大きな種目は練習する時間がとれないせいか、走る種目が多くて、五中なども、100メートル走とか200メートル走とか走る種目が続くのですが、その中で、演出の工夫というか、走る合い間に2年生・3年生の女子と2年生・3年生の男子と二つの種目に分けまして、走り高跳びの種目を入れていました。走り高跳びというのは個人競技なのです。代表の人たちが数人出るというようなことなのでしょうけれども、改めて見てみるとすごくおもしろくて、跳べるか跳べないかすぐわかるので、その場で見ていておもしろくて、跳べるとやはりみんなからわーっと拍手が出たりして。中には、助走で一たんやめてしまうと、次のときもなかなか踏み切りができないというか、おじけづくのですか、やはりやめたりして。私も、「あの子、今度また走るかな」とか、そういうところを注目して、「やっぱりまたやめちゃった」とか。なかなか見ごたえがあつておもしろかったですね。もちろん、得意な子が出ていると思うので、男子だと140センチとかどんどん高くなったりして、すごくおもしろかったです。三中のほうもやはり同じようなことで、走る種目が多いものですから走り高跳びを入れていましたね。これも、今後、ひょっとして定番になるのかなという予感がいたしました。

それと、今、飛鳥馬委員のほうからもお話のあった、幼稚園とこども園を視察したという件です。私の感想なのですが、確かに見に行ったときには、幼稚園の子どもは自由に遊んでいて、やよいこども園のほうは、先生が指導して、マット運動とかやらせたり、先生が詩を覚えさせて、「続いて言ってね」とか、詩の暗唱みたいなことをやって、教育的なプログラムをやっていたのです。何となく幼稚園のほうがそういう教育的なことをやって、今までの保育園というのは自由奔放、そういう教育的なことを余りやらないようなイメージが一般的にあるのではないかなと。私などはあったのですが、逆のようなと



ころを見せていただいたわけです。ただ、やよいこども園の先生も言っていたように、たまたま私たちが行ったときにそういうプログラムのところを見ることになったのであって、「ふだんは、自由に走り回ったり、遊んでいる時間も多いです」とおっしゃっていました。多分そうだと思うのです。朝から晩まで教育プログラムがあるということではなくて、そういうのも織り込んでいるということだと思うのです。ひがしなかの幼稚園のほうも、自由ばかりではなくて、本の読み聞かせとか、教育的なところも取り入れてやっていたと思うのですけれども、確かに場面としては割と極端なところを見せていただいたような。おもしろかったのですが、こども園というものの位置づけというのがどうなのかなというのは、私たち委員はみんな感じたと思うのです。

国の施策で、幼稚園・保育園を統合した施設として「こども園」というものに移っていくという方針が打ち出されたと思ったのですけれども、新聞報道にもありましたが、こども園というのはなかなかふえていない。事務的な、手続的な煩雑さとか、そういうこともあるらしいのですけれども、親のニーズがいろいろ違う。幼稚園に通わせるという親と保育園に通わせるという親のニーズが違うというところで、これを一緒に一つのこども園として運営するというのはなかなか苦勞があるなというのは、こども園の先生のお話を聞いても思ったのです。では、昔みたいに分けたほうがいいのかというのは、先日教育長からのご意見にもあったように、大所高所的から見て、子どもを社会が育てていくという点からすれば、子どもはどっちも同じではないかというのも、本当にそうだと思うのですけれども、国の方針が今何となく定まらないようなことで、やはり普及していかないのかなと思ったり、今後どうなるのだろうかというのをちょっと疑問に思いつつ、園を後にしたというところでございます。

私からは以上です。

山田委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

特にございません。

山田委員長

各委員からの報告につきまして、追加の発言がございましたらお願いいたします。

それでは、私から1点追加をいたします。

6月4日、私が学校医をしています谷戸小学校の運動会が開催されましたが、谷戸小学

校はことしから耐震工事のために校庭が使えません。ということで、近くの桃園第二小学校の校庭をお借りして、朝8時半から12時半というスケジュールで行われました。私は冒頭の15分ぐらいしか見ていないのですけれども、先生方にお伺いすると、リヤカーで何往復かしたということで、その機材を運ぶのが大変だったと。運動会にはいろいろなものが必要になるので、そういったことで。でも、子どもたちのためにはやれてよかったなど。来年度も同じようなことが続くということでもあります。

それから、同じく谷戸小学校のプール前健診ということで健康相談に行ったのですけれども、そのときに校長先生とお目にかかれたので、「ことしから夏季の岩井臨海がなくなりましたね。子どもたちのモチベーションが下がらないように何か工夫をされていますか」とお尋ねしましたら、「8月の終わりに、10分間遠泳できるコース、20分遠泳できるコースということで記録会をして、それでみんなの泳力を養いたい」ということで。各学校とも、夏季の学園が中止になったことに対していろいろな取り組みがとられていて、そういったことで子どもたちの体力の向上のために各学校いろいろ工夫されているなということがございました。

追加をさせていただきます。

何かご意見、ご発言ございますか。

では、ご発言がないようでしたら、事務局からの報告に移ります。

#### <事務局報告事項>

山田委員長

それでは、報告事項第1点目は「『小中連携・学校と地域との連携等についてのアンケート調査結果』について」の報告をお願いいたします。

副参事（学校再編担当）

それでは、お手元の資料「『小中連携・学校と地域との連携等についてのアンケート調査結果』について」、ご報告させていただきます。

この調査につきましては、本年2月4日の第4回教育委員会定例会で実施についてのご報告をさせていただいてございますが、改めて「目的」でございませう。

先般の「これからの中野の教育検討会議」での報告等を踏まえまして、小中連携や学校と地域との連携等に関するアンケート調査を実施いたしまして、区立小・中学校での今後の取り組みに向けた検討の参考にするといったものでございませう。なお、平成21年度に開校いたしました統合新校の白桜小と南中野中につきましても、あわせて、統合に関する質

問項目を追加させていただきまして、統合時における学校運営に活かしていくというふう  
に考えてございます。

2番目の「調査対象」につきましては、以下のとおり、区全域でサンプリングさせてい  
ただきまして、全体で小学校8校、中学校7校、合計15校の2,835人というふうになってご  
ざいます。

次に、「調査期間」ですけれども、23年2月15日から3月4日の期間、学校を通じて調査  
票を配付させていただいた結果、2,363名の回収ができて、83.35%の回収率というふ  
うになってございます。

また、「質問項目」につきましては、対象者区分ごとに後ほど別添でご説明させていた  
だきますけれども、大きな項目として、「これからの学校に望むこと」「小学校と中学校の連  
携について」「学校と地域との連携について」の3点、そして、新校の2校については、学  
校の統合についての項目も追加させていただいてございます。

それでは、調査結果の具体的な内容についてご説明をさせていただきます。別添の2ペー  
ジからお開きいただきたいと思います。

最初に、「これからの学校に望むこと」に関しまして、「通学している学校をどんな学校  
にしたいですか」との質問について、児童、生徒とともに「いじめや荒れのない学校」と  
いう回答が一番多くございました。次に、「運動会や学芸会などの行事が楽しくでき、充実  
した学校を望んでいる」といったものでございます。3ページでは、保護者、教職員でも  
同様に、「いじめや荒れのない学校」という回答が80%、あるいは75%と高くなっている一  
方、次に「勉強がしっかりできる学校」「学校規律や生活規律のしっかりしている学校」を  
望んでいる回答が多くなってございます。

次に、4ページ、5ページをあわせてごらんいただきたいと思います。「学校に、今後、  
特にどのようなことに取り組んでほしいか」あるいは「取り組んでいくべきことは」との  
質問については、保護者、教職員ともに「豊かな人間性や社会性の育成」「学力の向上」の  
回答が多く、保護者、教職員が考えている学校が取り組んでいくべき方向性についてはお  
よそ一致しているところでございます。

次に、6ページ、7ページをごらんください。「小学校と中学校の連携について」でご  
ざいます。「小学校と中学校の連携を推進するために取り組んでほしいこと」に関しまして、  
児童、生徒は「クラブ・部活動」「地域のお祭りや行事など」の回答が多くございまして、  
保護者についても、「行事などの交流」「クラブ・部活動の交流」とともに、「小学校と中学

校との情報交換」についても回答が高くなってございます。保護者にとっては、教職員と同様に、学校の校種間での情報の共有が必要と考えている結果となっております。

8 ページをごらんいただきたいと思います。ここでは「中学校に入学して困ったこと」について中学生に質問してございます。6割の生徒が「困ったことはなかった」と回答いたしまして、「困ったことがあった」と回答した244人にその内容を尋ねたところ、「生活のリズムの変化」「友達関係」「授業のやり方」「雰囲気の変化」といった内容が多く占めてございまして、中1ギャップに至らないまでも、進学時のさまざまな葛藤がうかがえる結果となっております。

次の9ページからは、「学校と地域との連携について」でございまして。「地域の人や保護者が学校を支援してくれることについてどのように思いますか」では、7割以上の児童、生徒が学校への支援を肯定的にとらえている回答でございました。また、「学校と地域との関係」につきましても、生徒と、次の10ページにございます保護者ともに、「地域の人やスポーツや文化活動のできる学校」という回答が多くなってございます。

次の11ページ、学校支援ボランティアの活用や協力に関する質問につきましては、保護者、教職員ともに、「地域の人に積極的にサポートしてもらいたい」との回答、あるいは「学校とボランティアを結びつけるコーディネーターが必要」との共通回答が多くございました。

また、12ページでございまして、保護者の協力については、「時間があれば協力したい」を含めまして、約95%の方が何らかの形で学校支援ボランティアとして協力したいと考えていることがうかがえる結果となっております。

13ページからは「学校の統合について」でございまして。「統合するにあたって、学校生活で心配なことはありましたか」との質問では、「心配なことはなかった」という回答が72%というふうになっている一方、児童のうち28%の48人が友達関係などで「心配なことがあった」としてございます。しかし、統合後にはその心配も48人のうち35人は解消しているといったものでございます。

14ページでは、同じく、生徒や保護者の回答の多くが、統合後「心配なことがなくなった」としてございます。

また、次の15ページから17ページの「統合して変わったことはありましたか」との質問については、児童、生徒、保護者等のすべてで「遊ぶ友達が増えた」「学校がきれいになった」「学校生活が楽しくなった」など、学校統合に関し肯定的な回答が多くなってござい

す。

次に、18ページをごらんください。運動会や学芸会の行事の変化につきましても、「人数が増えて、楽しくなった」「元気が出た」「迫力が出た」といった回答が6割以上ございました。一方、少数としては、「やりにくくなった」という意見も2校で数件ございましたけれども、多くの子どもたちは、次の19ページにございます統合により人数がふえたことについての質問でもあるように、「人数が増えてよかった」と考えており、次の20ページの上段にございます保護者も75%が「よかった」というふうに回答してございまして、ここでも、学校の統合に関して肯定的な回答結果をいただいているところでございます。

なお、20ページ、21ページの教職員の職務上の配慮と事務の負担の変化についてはごらんのとおりでございます。

また、22ページには、全体を通しての自由意見を記載してございますので、お読み取りいただければと思います。

なお、この結果につきましては、本日及び区議会への報告以降、区のホームページ等で区民にお知らせしたいと考えてございます。

私からの報告は以上でございます。

山田委員長

では、質問等ありましたら、お願いいたしたいと思えます。

高木委員

調査結果の2ページ、3ページのところなのですが、児童、生徒、保護者、教職員で「学習規律や生活規律のしっかりしている学校」、小学生の場合は「あいさつやきまりを守ることができる学校」というのが、小学生と保護者と教職員は比較的高いのですけれども、中学生だけがくっと10%しかないのです。これはどういうふうに分析されていますか。

指導室長

小学生、それから保護者、教職員については確かにそういう傾向がございまして。中学生については、きまりということに一つの反応を示す部分があると思えます。中学校に入っ、小学校よりは決まりがいろいろ多くなってくる。その中のせめぎ合いみたいなところもあるので、そういう中での回答、いわゆるこの年代特有の回答なのかなというふうに思っております。

山田委員長

ほかにはございますか。

飛鳥馬委員

アンケートですから、どう読んでどう活用するか、いろいろな見方があると思うのです。私は、今のグラフのこの4ページと5ページのところを見ているのですが、4ページのところの質問は、「学校に、今後、特にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか」というので保護者に聞いて、5ページは教職員ですよね。それを見ると、上のほうの高いブルーの「豊かな人間性や社会性の育成」、それから「学力の向上」は、両方とも保護者も教員も結構高い。3番目の「体力」もそこそこということですね。そういう傾向を示しているのですが、下のほうのをもうちょっと見ると、真ん中辺にオレンジがありますけれども、「地域の人や保護者からのサポート体制」とか、その上の「地域のボランティア活動などへの参加」のほうがいいですかね。要するに、1番目の豊かな人間性や社会性を育成するのに、何を考えてそれを答えているかわからないのです。私は、ボランティアなどはすごくいいのではないかと思うわけですが、それは余り支持されていない、そんな感じに読めるのです。保護者も教員もそうなのですね。育ててほしいのは豊かな人間性や社会性、あるいは学力なのだけれども、「ボランティアはちょっとね」と思っているのかどうかがよくわからない。

それから、同じようなことでは、例えば2番目に「学力の向上」というのがありますよね。「学力の向上」を見ると、2番目に出てきて非常に高いわけですが、下のほうの「家庭学習の習慣化に向けた支援」とか「教員の授業力の向上」というのが低いのです。学力を上げるためには習慣化も必要だし、先生の授業力を上げることが大事だと思うのですが、では、何を考えて学力の向上をしたいと思っているのか、その辺が。アンケートですから、細かいことが出てこないのはわかるのですが、見るときに、これを活用できることが大事かなと思うのです。そういうふうに読んでいくと、今回の次のテーマに、今の「連携」ではなくて「学校支援ボランティア」が出てきますよね。地域連携担当のほうから。そうすると、ボランティアなどが余り高くないのにどう解釈したらいいかみたいなの。要するに支援してほしいという気持ちが余りないのに、こっちでと。だから、その辺を踏まえながら計画を練っていく必要があると思うのです。低いからダメなのではなくて、やらなくていいのではなくて。そういうものにも活用できるのかなというふうに思って4ページと5ページを見ました。

以上です。

高木委員

今、飛鳥馬委員がおっしゃったことも慎重に見ていかないといけないと思うのですが、設問の仕方が「学校に、今後、特にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか（回答は3つ以内で選択）」なので、例えば「幾つでも」というとみんな高くなってしまおうと思うのです。特に保護者の方で、この中で3つというのと、学力と、体力と、というふうになったのかななどと思うのです。これは、もう1回別の形でやってみないとわからないのですが、細くなればなるほど回答する人が少なくなってくるので、これは飛鳥馬委員が指摘されたように、慎重に分析する必要があるのかなと思います。

山田委員長

ほかにございますか。

大島委員

一つは、今の先生方のお話にあるように、アンケートの仕方というのはなかなか難しいなと思います。例えば、「豊かな人間性や社会性の育成」を望んでいる。一般論としてはすごく望むのですけれども、自分の身近なところでの具体的イメージとして地域のボランティアというようなこととは結びつけて考えていないという方が多いのかもしれないし、今おっしゃったように、回答が三つに限られている、それももちろんあるのでしょう。さっきの学校支援ボランティアなども、やりたいというお気持ちの方が95%と。一般論としてはやりたいと。だけれども、自分が具体的にいつ参加するかとか問われると、そこまではイメージしていないという方も多いのかもしれないと思ったり、一般的にアンケートをやる時には読み取り方は難しいなというふうに感じたのが一つです。

そんな中で、白桜小と南中野中の実際に統合した学校の生徒たちに聞いてみると、そんなに「困った」という回答が多数意見というわけではなかったというところはちょっとほっとしたというふうに思っています。もちろん、「困ったことがあったし、今も続いている」と答えた生徒さんもいるので、そういう生徒さんへのケアというのは大事にしていかなければいけないのですけれども、総体的に見て、子どもたちの心の状態や混乱とか、学校生活についての心配というところで見ると、皆さんおおむねなじんで、それなりに新しい学校での生活も楽しんでいる子たちが多そうだというようなことが見てとれて、それはすごくよかったなというふうに思っております。

以上です。

山田委員長

そのほかにご意見ございますか。

私からですが、今まで委員の先生方がおっしゃったように、アンケートのとり方にもいろいろあって、恐らく、保護者もしくは教職員もそうなのですけれども、人間性や社会性の育成だとか学力の向上を望んでいるけれども、学校の連携の中では、地域の人たちがスポーツや文化活動ができるような学校を望むと。もし学校側から支援の必要があれば、それに対してはなるだけ参加したいけれども、だれがコーディネートするのでしょうかというようところに疑問が投げかけられているというふうに取り取れるので、この次の報告事項に出てくるところとの兼ね合いもあるかなと。

あと、私たちが非常に気にしている小・中とかの異校種間の連携については、やはり情報の交換とかということが一つのテーマとして出てきているわけなのですけれども、その辺ができていようでなかなかできてこない。私たちも、とりあえずは教員同士の結びつきからいったほうがいいのではないかということなのですけれども、なかなかきちっと進んでこないのが現状なのかなと。それがうまくいけば、中学生が入ったときに心配となっている「授業のやり方がわからなくなった」とかということにつながってくるのだと思うのですけれども、指導室、その辺はいかがでしょうか。今後の異校種間の連携のことですけれども。

指導室長

これまでも、保幼小連携とか、小中連携の協議会とかもやっているわけですね。その中で、互いの授業、保育の様子を見合ったり、情報交換をしている。それから、個別に進学、就学したお子さんたちの状況について確認し合ったりしている状況でございます。やはり場面をつくっていかないと、なかなか積極的にというのですか、互いに忙しいということがありますので、そういう場面をもっとつくっていくことと、さらにそういう場面を有効に、ただ情報交換というだけではなくて、もう少しテーマを持った情報交換をするとか、このアンケートをもとに話し合っただけとか、そんなことを考えていきたいというふうに思います。

山田委員長

ほかにご意見ございますか。

関連ですけれども、今、授業の中での連携をやっているところもなきにしもあらずですよ。例えば英語の活動であったり、理科であったりすると思うのですけれども、その辺をもう少しお願いします。

指導室長



多くの学校が、特に中学校の教員が小学校に行って、いわゆる出前授業のような形で、今お話のあった英語活動ですとか、体育ですとか、部活ということで、一緒にやってみたりとか、そんなことを子ども同士のというのでしょうか、教員がどっちかに行って指導してもらうとか、そんなことでの指導の様子を逆に教員もお互いに見合うなどということもできています。それから、中学校の先生がこういうふうに指導してくれるのだという期待感みたいなものを持って中学に行くとか、あの先生が小学校に来てくれたなと顔見知りになるということもとても重要なポイントだというふうに校長先生方から聞いているところでございます。

山田委員長

中野区の教育委員会では、これから今後の学校の再編統合についての審議をしていくわけですがけれども、その通学区域ですね。中学校を中心とした通学区域をもう一度見直すというような形での今の中での情報の共有とか、情報の交流とかということが進められればある程度理想の形に近づくのかなというふうに思います。

ほかにご意見、ご発言ございますか。

では、次の報告事項に移ります。

次に、「若宮小学校特別支援学級（情緒障害等）の整備について」の報告をお願いいたします。

副参事（学校教育担当）

「若宮小学校特別支援学級（情緒障害等）の整備について」、ご報告いたします。

こちらの若宮小学校の情緒障害等の通級の学級につきましては、情緒障害等の通級の指導学級への通級者が増加しているということに伴いまして、現在の塔山小学校と上高田小学校だけでは区の北西部の児童さんが通学しにくい、通級しづらいという状況があるため、今年度準備をして、来年度4月開級を予定しているものでございます。

お手元の資料に沿ってご説明いたします。

設置校は、若宮小学校でございます。

障害の種別は情緒障害等ということで、予定の学級数は3学級を予定しております。

設置の場所につきましては、若宮小学校の2階東側の部分220平米を予定しております。

資料の裏面をごらんください。

上の図が平面図でございますけれども、この斜線の部分に当たる2階の部分に学級を設置する予定でございます。この図の下の部分、小さくてちょっと見にくいのですが、

こちらに教材の準備室、学習室、プレイルーム、教材庫といった形で整備する予定でございます。

お手元の資料の表面に戻っていただけましたらと思います。

今後の予定でございます。7月7日に若宮小学校の保護者の方、周辺の地域の方、それから、塔山小学校ですとか上高田小学校に通っていらっしゃる方を含めて説明会を開催する予定でございます。こちらについては、主には工事の内容についてのご説明になる予定です。

その後、夏休みの期間を中心に改修工事を行います。11月に施設見学会を予定しております。その後、12月から3月にかけて備品ですとか開設の準備を進めて、4月1日の開設を予定しております。

この後ですけれども、第2回定例会で委員会のほうに報告をさせていただく予定でございます。

以上です。

山田委員長

では、ご質問ございましたらお願いいたします。

大島委員

開設予定場所が2階の一部ということで、今現在、普通教室とか歴史資料室とかというふうに書いてあるのですが、そういう今現在のところを改装して今回特別支援学級の部屋にするということだと思のですが、これはそういうことに使ってしまったら、若宮小学校の今までの学校自体の運営としては別に支障ない場所だというふうに考えてよろしいでしょうか。

副参事（学校教育担当）

委員おっしゃるとおりです。

大島委員

ということは、今は使っていない場所というふうに理解してよろしいのでしょうか。

副参事（学校教育担当）

こちらの図面のほうには利用の施設が入ってございますけれども、こちらのほうを別のところに移した形で学校の授業のほうは使っていくということになります。

山田委員長

ほかにご質問ございますか。

高木委員

特別支援学級の開設に当たっては、旧沼袋小学校の情緒障害の通級の移転先がなかなか決まらなくて、保護者の方ですとか現場の先生方もちょっと不安というか不信を生じたというのが実態としてあると思うのです。東京都でも、昨年11月に、都としての特別支援教育推進計画の第3次というのを発表しています。それを受けてということではないのですが、現状で、北区、杉並区、練馬区、目黒区、葛飾区、港区、中央区などは、既に区としての独自の特別支援教育の推進計画を出しているところです。これから学校再編の中期・後期を見ていく中で、中野区としてどういうふうに特別支援教育の学級を設置していくのかというのをきちっと計画的にやっけていかないと、保護者の方や区民の方の不安をいたずらに募らせることになるので、これはぜひお願いしたいなど。

特に情緒障害については、情緒障害という概念がしっかりしたのでふえたのか、それとももともといたのかというのはちょっと議論があるところなのですが、数字によっては5%というような数字もありますので、そうすると、やはりどこの学校でもその対応が必要だと思います。それに対して教育委員会としてしっかりとしたサポート体制をしていかないと、現場の学校や担当の先生レベルでは難しいというのが実情なので、そういう特別な支援が必要な子どもたちを困うということではなくて、円滑にやっていく。特に通級ということだと、通常級に在籍しながらということなので、保護者の方も非常に出しやすいところがあるので、ぜひこれは早いうちに教育委員会としての考え方をまとめてやっけていかないとまくないなと思うので、ぜひよろしくをお願いします。

副参事（学校教育担当）

昨年度中に内部で検討会を設けて、特別支援教育の考え方というのを一定整理をしております。今また教育委員会としての整理を進めているところでございますので、その中でお示ししていけたらというふうに思っております。

高木委員

私の要望としては、中野区としてしっかりとした推進計画を整備してほしいということなので、事務局レベルでまとめるということではないので、しっかりとした計画を立てて、教育委員会で議論をした上で区民の方に発表する。それで、スケジュールどおりやっていくことによって、同じ「やる」でも、区民の方の安心度が違いますし、情報の公開ということもありますので、ぜひそういう方向で検討していただきたい。検討していないのではなくて、進め方として、もう少し情報を先出しにさせていただくと区民の方の不安や

不信が減るのかなということでございます。

教育長

特別支援教育については、高木委員がおっしゃったように、昨年東京都が第3次の計画を発表したということだけでなく、国において、障害者施策全体の大きな動きというものもありました。障害者施策の自立支援法の改正というようなことがありまして、教育委員会の中で特別支援教育を検討するだけでなく、全庁的にも、今後どういう方向で、区として障害者施策の中で、あるいは障害者施策と特別支援教育と連携させていくのかというような検討も必要だというふうに思っておりますので、そういう意味で、教育委員会の中で検討しているものをこの場にもお出ししながら意見をいただき、関連部署とも詰めたものを計画化していきたいというふうに考えています。

山田委員長

ほかにごございますか。

今の高木委員、教育長の話は非常に大切なことで、今後、中野区としてどのように取り組むのか、それも、子ども教育部ということですから、生まれてから、自宅であったり、施設としての保育園であったり、幼稚園であったり、学校であったりということですから、その施設の面、もしくは人の面をどのようにしていくかという大きな問題だと思うのです。その中で、教育委員会として、我々の所管するところではこのようにしていこうという大きな計画というか施策を求められているのだと思うので、これは十分に議論していかなければいけないのではないかなと思います。

ほかにご意見ございますか。

続きまして、事務局報告事項の③「学校支援ボランティア制度の創設等について」の報告をお願いいたします。

副参事（学校・地域連携担当）

「学校支援ボランティア制度の創設等について（案）」でございます。こちらの学校ボランティア制度（案）につきましては、3月11日の教育委員会定例会のほうで既にご報告させていただいた内容でございますが、その後、地域関係団体のほうへこの制度（案）についてのご説明をまいりました。その中でさまざまご意見をいただいた内容を踏まえまして一定の整理をして、よりわかりやすいものという形で再度ご報告をさせていただくものでございます。

ちなみに、資料としてはございませんが、まず、地域団体への説明等で出されました意

見等につきまして簡単にご説明させていただきたいと思ます。

4月の下旬から、次世代育成委員さんを初め、町会・連合会と関係団体のほうへご説明をしてまいりました。特にどこの団体からも出た意見といたしましては、ボランティア制度の内容につきましてもう少し具体的に説明、記述があったほうがいいのではないかなというようなご意見がございました。また、コーディネーターという形で、この中で特に地域と学校のパイプ役を担っていただきます次世代育成委員さんへの負担がまた加わるということで、そういったところで、次世代育成委員さんのほうでこういった制度のパイプ役になれるのかなというご心配の向き、ベテランの方も当然いらっしゃるし、その中で新人の方もいらっしゃるということで、そういったところで学校とこのパイプ役の方との関係について整理をしたほうがいいのではないかなというご意見もございました。

また、もう1点多くありましたのが、現在、学校と地域の間でボランティアのほうの体制が整えられている部分についても、「この制度にすべて入らなければいけないのか」といったようなご意見もございました。各団体へ参りまして共通に多く出された意見というのは主にその3点でございます。そういった点も踏まえまして、資料のほうを一たんわかりやすいような形で整理させていただいたのが、現在、お手元でございます「学校支援ボランティア制度の創設等について(案)」ということでご報告をさせていただきたいと思ます。

まず、「目的」でございますけれども、こちらのほうにつきましては、前回ご報告したとおりということで、基本的に、学校と地域の連携をなお推進していくということで、地域に開かれた特色ある学校づくりを目指していくというのを目的として掲げてございます。

2番目の「ボランティアの活動内容」でございます。今ご紹介申し上げましたとおり、例示等を含めてどういうことがボランティアであるのかなというようにご質問が幾つも出されておりました。それを踏まえまして、①から③、それぞれの活動の内容につきまして例示を設けさせていただいたとともに、なお書きでございますけれども、有償の活動等についてはボランティアの対象外としますということで、こちらのほうでも具体的な内容を記載してございます。

また、(3)「制度運営の仕組み」でございます。こちらにつきましては、別紙のほう、1枚おめくりいただきますと、ホッチキスとじの、ボランティア制度(案)ということで図をつくらせていただきました。全体像につきまして、ご説明をする際に、ぱっと見てそれをご理解していただくような資料が整えられなかったわけございまして、別紙のほうを作成させていただいて、こちらのほうでよりわかりやすい形で図を作成させていただ

てございます。

まず、こちらの図のほうをご説明させていただきたいと思います。全体、横になってございますけれども、一番上に「学校支援ボランティア制度」ということで大きなくくりがございます。その下には、先ほど地域のほうでご意見が多く出されました、現在、学校と、既に学校を支援している人材、この関係をどう扱うのかというところをこちらの図のほうでご説明させていただいております。各中学校区エリアの特定の学校ではございませんが、学校と地域のほうの人材が既に直接協力依頼の関係を保っているというような形である場合には、特にコーディネーターを通さなくても、今までどおりの形で協力関係を築いていただければというのがわかるような形でこちらのほうを示してございます。

また、その下に「(仮称) 学校支援会議」というくくりがございます。この中の右側のほうには、コーディネーター、次世代育成委員のA、B、Cという形で丸囲いがございますけれども、これと左側の中学校区エリア、各学校の中学校、小学校の関係でございます。前回ご説明させていただいたときには、文言といたしましては、「各学校にコーディネーターを配置する」というような記述になってございました。各地域を回ってご説明している中で、やはり次世代育成委員さんの中には非常にベテランの方もいらっしゃいますし、今後改選を控えて新しい方にもご参加いただくというような中で、1対1の関係という形は、その力動的なものも含めてなかなかスムーズにいかないのではないかというようなご意見もございました。また、改選を控えまして、新しい方にご参加いただくというのを踏まえて、コーディネーターと学校との関係をこの中の図のほうで一定の整理をさせていただいております。ここにありますとおり、次世代さんのほうは、中学校区の中での複数の人数で各中学校区エリアの学校のほうの担当をしていただく。ただし、それぞれの連絡担当というのは当然設けるべきだというふうに考えてございますけれども、1対1の関係というよりは、コーディネーターさんの複数の人数で中学校区エリアの各学校のほうと調整を図っていく、そういった関係をこちらのほうで図示してございます。

また、右側のほうでは、民生委員さん、児童委員さん、さまざまな団体のほうからの各地域の人材、これらをコーディネーターさんが連絡調整をして、各学校のほうへ日程調整等を行っていくという形のもの示してございます。

その下に「ボランティアバンク」というのを書かせていただいておりますけれども、区のほうで募集をいたしまして、それをバンクとして登録させていただいて、次世代さんからの人材提供の依頼等に情報の提供という形でこたえていくというような仕組みをつくっ

てまいりたいというふうに思っております。

一番下には、教育委員会が支える部分と全体を支える部分ということで、学校支援会議の運営事務でありますとか、コーディネーターさんのスキルアップのための研修、ボランティア保険と費用弁償、こちらについては教育委員会のほうで制度全体を下支えするというところでやっていくというような、そういった図をこちらのほうにつくらせていただきまして、今後ご説明をさせていただきたいというふうに思っております。

1枚目のほうにお戻りいただきたいと思っております。

今ご説明させていただきましたのが、(3)「制度運営の仕組み」ということで、「(別紙)」と書かれておりますけれども、こちらを別紙のほうでご説明させていただきました。文言的なものとしたしましては、一番上の1の①「コーディネーターの配置」の一番最初の「・」の部分でございますけれども、右側のほうの「コーディネーターを各中学校区エリアに配置し」といった表現以外につきましては、特段大きな変更をしてはおりません。

裏面のほうをごらんいただきたいと思っております。

質問の中にも、次世代さんのほうの負担等ということで、次世代育成委員の改選についてのご質問等も盛んに出ておりました。そういった点も踏まえまして、次世代育成委員の改選についての期日をこちらのほうに設けてございます。(1)といたしましては、次世代育成委員さんの説明という形で、設置根拠、職務、委嘱、定員等を新たな任期期間につきましてこちらに記載をさせていただいております。

(2)といたしましては、簡単ではございますが、改選手順ということで、9月の改選に向けて中学校区ごとに推薦会を設置していくということ。推薦会におきましては、青少年育成地区委員会さん、地区町会連合会さん、小・中PTAさん、各小・中学校の校長先生等で構成します推薦会の中で区長への推薦候補者を決定していく形で改選を進めていくというふうなご説明を書き加えてございます。

3といたしまして「今後のスケジュール」でございます。左側のほうには学校支援ボランティア制度のスケジュール、右側のほうには次世代育成委員の改選のスケジュールということで、今回、パイプ役ということでコーディネーターになっていただく次世代育成委員さんの改選事務が切っても切り離せないということで、一つの資料としてまとめさせていただきました。スケジュールについても見比べられるような形でこちらのほうに記載をしております。今後につきましては、この資料等を用いまして、第2回定例会のほうで議会等への報告もさせていただきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

山田委員長

それでは、ご質問がありましたらお願いいたします。

飛鳥馬委員

二つあります。

一つは、「目的」のところなのですが、先ほど小中連携のアンケートのところでも話したことなのですが、この「目的」で言いますと、「地域のさまざまな人材を、学校支援ボランティアとして活用し、学校と地域の連携を推進する」というのが一つありますね。さらに、「地域に開かれた特色ある学校づくりを目指す」というふうに書いてありますが、学校と地域は何のために連携するのですかという大事なところがちょっと。地域に開かれたというのは、どうして開くのですかみたいな。その辺のところがあるともっとすっきりすると思うのです。つまり、子どもの豊かな社会性とか人間性を育てるために連携が必要なんですとか。さっきのアンケートの活用版なのですが、あるいは、体力とか学力を向上させるために地域の力が必要なんですよ、応援してほしいんですよ、その辺があると、これだけよりも。何のために連携とか特色というのではなくて、子どものためにというあれが利用できたらうれしいなと思っているのですが、ちょっと言うのが遅くなって済みません。

ついでにもう1点いいですか。活用するかどうかはお任せしますので。もう1点は、教育委員会事務局のスタンス、立場として、このボランティア制度をつくるについてのスタンスが今の説明の中に出てこないのですが、説明等のときにしてほしいと思っていることは何かというと、このボランティアで学校を支援するということは、学校が必要とすることに対して支援するのですよみたいなことをちょっと言ってほしいなど。学校が教育活動で効果的だ、やってほしいということをお支援助する。それは、子どもの学力、まさにさっき言ったようなそういうために必要なのだということですね。

何でそうかということ、何か制度をつくったりすると、割と形にはめたくなるのが私たちで、こうやってほしいとか、こうじゃないとだめですよみたいな。そうではなくて、学校、校長さんとか、地域とか、コーディネーターの方を生かしながら、意欲的にやってもらうためにそういう人たちの意欲・活力を発揮してほしい。いろいろなお膳立てはしますけれども、あとはいろいろなことを工夫してやってくださいみたいな、そういうゆとりがないと、やらなければいけないとか義務感になってしまうとちょっとかた苦しくなるので。特



に校長先生に伝えるときは、コーディネーターも大事かもしれませんね。コーディネーターは、「おれ、何かやらなきゃ」と夢中になって、こう、こうというふうにやられるとあれだから、そうではなくて、御用聞きみたいに、「校長先生、何か応援できません?」「やることありませんか?」とか「子どもにこういうことをやれるこういう地域の人がありますよ」とか、そういうふうにしていくと学校もやりがいがあるのです。校長先生も、先生方も。「じゃあ、手伝ってもらおうか」と。最初に決められてしまうと——決めるつもりはないと思うのです。ないと思うけれども、説明会の際にコーディネーターや校長先生にはそういう話をするのが大事なのかなと私は思っているのです。もしできたら。

ちょっと長くなりますが、この前、雑誌か新聞か、これに関連するものを見ていたら、この学校支援ボランティアのことなのだけれども、「学校応援隊」と書いてあるのです。日本的でいいなと思った。東京都も区も文部科学省もみんなこの「学校支援ボランティア」という横文字を使っているのだけれども、「応援隊」っていいなと思ったのです。それはちょっと雑談です。

以上です。

副参事（学校・地域連携担当）

飛鳥馬委員おっしゃるとおり、子どものためにというのは当然のスタンスでございます。「教育ビジョン」の中にも、目指す人間像を完成させていくためにも、地域に根差した質の高い教育ということで、それぞれ人間性とか社会性を育てていくというのが非常に重要だというふうに書かれてございますけれども、その中で、家庭・地域・学校の連携が非常に必要だという大きな柱を掲げてございますので、そういった「子どものために」というスタンスでこの事業のほうを進めてまいりたいというふうに思っております。

また、教育委員会のスタンスというお話がございました。説明のほううまく説明でき切れなかったところがございますけれども、学校を支援していくということが当然前提でございまして、先ほど申し上げました、既に学校とボランティアさん、うまくいっている部分は今のその状態を維持していただくということで、特段この制度にどうしても入らないと今までのボランティア制度ができないということではございませんで、おっしゃったみたいに、「こういった人はいませんか」といったような学校のご要望にこたえていけるといった制度を基本として考えていきたいというふうに思っております。

山田委員長

ほかにご質問、ご意見ございますか。

## 大島委員

今、飛鳥馬委員がおっしゃった「学校応援隊」ということは、この本質を突いているようですごくいい言葉だなと思ったのです。つまり、その学校の子どもたちが育つことを応援したいという地域の人たちとか保護者の人たちの自発的な気持ちというのですか、それが根本にあって、それを具体的に実行していくための手助けを教育委員会がするということだと思ふのです。支援ボランティアというと、予算もないから、花壇の手入れとかをただでやってもらえると金銭的に助かるみたいな、教育委員会がただの労力を使おうとしているみたいに誤解されると、これは大変寂しいことであるし、根本がそういうことではなくて、何でこういうボランティア制度をやるかということ、地域の中にある学校であるし、特に中野などは、地域が学校を応援しようという気持ちを強く持っていていっているという特色があると思いますし、地域の方、保護者の方たちがその学校の子どもたちのために何かしたいということがあるので、そういう応援の気持ちをスムーズにやっていただくための制度だということを皆さんが理解して、浸透していただけるといいなと。また、子どもたちにとっても、地域の大人たちが自分たちのためにいろいろなことをやってくれるということでありがたいなということを感じてもらふ。そこでの地域の人たちとの交流というようなものも当然予定していることだと思ふのですが、そういうことに意義があるというところもなるべく強調してやっていくといいのではないかなというふうに感想として思いました。

## 副参事（学校・地域連携担当）

今、大島委員おっしゃるとおり、先ほどのアンケート調査の内容につきましても、11ページにございますが、学校支援ボランティア制度の活用を図ることについてということで、地域の人に積極的にサポートしてもらふべきという学校側のほうのそういったご意見もございますし、保護者のほうでは、できることがあれば協力したいという潜在的な考え方や協力していくべきだという考え方が示されておりますので、今大島委員がおっしゃったような形での応援を地域がしていくのだという視点に立った制度であるという形のことをご説明してまいりたいというふうに思っております。

## 山田委員長

私からですけれども、この学校支援ボランティアというのは、私たちも何年か継続的に審議しているといえますか、あれなんですね。今お話があったように、既存のボランティアとして学校に参画している方もたくさんいる。しかし、先ほど飛鳥馬委員がおっしゃっ

たように、学校が何を求めているのか、もしくは校長先生の学校経営計画の中でどのような支援を必要としているのかという視点でいけば、それに対してアプローチをしていく。それがまさに教育委員会としてできる「学校と地域との連携」というビジョンに掲げたものの具現化だろうと思いますし、たまたまきょうは学校再編担当のほうでとったアンケートがあるわけですから、それをここに落とし込んでいくことでアンケートが生きてくるといことで、一歩踏み込んだことで——命名のこともありますけれども、その辺をもう一度整理していただいて、今後の学校支援ボランティアのことについてももう一度（案）を精密に直していただいてということもいいかもしれません。総論的には非常にすばらしいのではないかなと思います。

副参事（学校・地域連携担当）

今おっしゃったことを念頭に置きまして整理させていただきたいと思います。

山田委員長

ほかにご意見ございますか。

高木委員

学校支援ボランティア制度の添付されている図なのですが、真ん中より左側はよくわかるのですが、右側のほうの関係が、これを見てもいま一つよくわかりません。ボランティアバンクが地域の人材と区内及び近隣区の人材で点線で分かれているのですが、一括してボランティアバンクで管理して行って、それをコーディネーターがやるのか、それとも地域の人材についてはボランティアバンクは関係なく直でコーディネーターがコーディネートして行って、それ以外のところを教育委員会のほうでマネジメントしていくのか、そういうところがちょっとあやふやかなと。

あと、その上の上下に矢印が出ているところの団体なのですが、これは大学とか専門学校とか入っていないですね。そういうところが一番戦力になると思うのです。私のイメージだと、そういうのは次世代さんではなかなか手がかからないところなので、教育委員会で、近隣とは言わず23区だったら、多摩までとは言いませんから、募集して、それをストックして分けてあげたら、最初の段階ではコーディネーター力が低い方もサポートできる。既にいろいろな形でやっている学校は、正直、教育委員会は邪魔をしないでくれと。ただ、やりたいけれども、中野区に来て経験が浅いからできないとか、次世代さんは頑張っているのだけれども、まだちょっと経験が足りないところに教育委員会としてきちっとコーディネーターや先生を支援してあげる学校支援をやっていかないといけないのではないかと。

などと思います。

あと、コーディネーター研修なのですけれども、表には「コーディネーター研修の実施」と書いてあるのですが、メインの資料のほうのスケジュールには入っていませんし、具体的にどの程度の研修をどうやっていくのかちょっと見えませんね。文京区などでは、半年ぐらいかけてコーディネーターの研修をやっている。これから制度スタートということなのですが、これを見ると、委嘱して制度はスタートしてしまっていて研修はない。「走りながら考える」みたいなのところがあるのです。忙しいとは思いますが、次世代さんが不安にならない程度の研修をやって、研修をやることによって、各次世代さんのポテンシャルですか、それを生かしつつも、均一なサービスというとおかしいのですけれども、それができるようなところはぜひ早く検討していただけたらと思います。

副参事（学校・地域連携担当）

3点ほどございました。

まず1点目でございますけれども、ボランティアバンクのところに点々が書かれてございます。説明のほうをさせていただかなくて申しわけございませんでした。下のほうに「ボランティア募集」「登録」というのがございまして、このところで、今委員がおっしゃったみたいな大学とか専門学校とかそういった部分の、地域では得られないような人材の募集等もさせていただきたいなというふうに思っております。上のほうの「地域の人材」というのが、先ほどお話が出ましたけれども、直にやるのか、それともボランティアバンクから行くのかみたいなところなのですが、両方あるのかなというふうに思っております。直接、次世代委員さんが知り得ているような人材については、当然、バンク自体に登録することなく次世代委員さんのほうで学校のほうにご紹介するという場面もあると思っておりますし、そういった人材の方が、ボランティアバンクのほうに登録をしていただくというようなことも考えられるということで、ちょっと点線で書かせていただいたのですけれども、そういった両方のパターンがあるということでこのような形の表記にさせていただきました。

大変申しわけありません。研修のほうのスケジュールと内容については、今現在詰めておるところでございますけれども、次世代の改選のほうのスケジュールに合わせてその内容を考えさせていただいて、という形で、今また詰めを行っている状況でございます。

山田委員長

ほかにご質問ございますか。

そのほかに報告事項はございますか。

子ども教育経営担当

ありません。

山田委員長

以上をもちまして、本日の日程を終了いたします。

ここで、傍聴の皆さんに今後の教育委員会の開会の予定についてお知らせをいたします。

来週6月24日は休会となります。7月1日は午前10時から、いつものとおり教育委員会の会議を開会する予定です。7月8日の金曜日は、中野本郷小学校訪問と小学校長との意見交換会のため、教育委員会の会議はありません。7月15日は午前10時からいつものとおり教育委員会の会議を開会する予定です。なお、教科書採択に集中して取り組むため、7月22日並びに26日の金曜日は休会となります。したがって、7月の教育委員会の会議の予定は、7月1日と7月15日の2回の予定です。

これをもって、教育委員会第18回定例会を閉じます。

午前11時20分閉会